

【授業科目】一般検査学特論 Advanced General Laboratory Science

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィス アワー	教職員への 授業公開
小菅 優子	4 年次 後 期	選 択	1	15	講 義	あり	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	授業概要／一般検査の依頼頻度が高い尿検査を中心に便潜血検査、脳脊髄液検査について講義する。検査項目における検体採取の諸注意や保存法、検査方法の原理や操作方法を理解し、検査結果から病態の考え方について教授する。具体的に、検体の取扱いや保存法、尿の一般的性状、糖、蛋白などの性状や検査法、尿沈渣の標本作成法、鏡検法や得られた沈渣の判別、糞便、脳脊髄の性状、採取法、基準範囲、細胞学的検査及び化学的検査の他、各検査について講義する。講義形式で、教科書を使用しながら適宜プリントを配布して行う。 課題に対するフィードバック方法／提出された課題について、全体の総評コメントを掲示にて公開する。							
実務経験に関する 授業内容	一般検査学の臨床経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な尿検査、糞便検査などの一般検査について経験を交えながら講義する。							
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー⑤「将来に向け臨床検査を主体的に学び、臨床検査の専門職としてのキャリアを伸ばせる能力を持つことができる。」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①各検査項目の一般的性状について説明できる。 ②検体採取及び検体取扱い法がわかる。 ③一般検査項目の基準値を列記できる。 ④一般検査項目の臨床的意義が説明できる。							
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	第1～8回事前学習：指定の教科書を事前に読み、解らない用語について調べておくこと（各60分）。 第1～8回事後学習：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各60分）。 ＊その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各120分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第 1 回 総論：検体取扱い、保存法、尿の生成、尿量、色調、 第 2 回 尿一般的性状 1：混濁、比重、浸透圧 第 3 回 尿化学的性状 1：糖、蛋白、ケトン体、潜血 第 4 回 尿化学的検査 2：ウロビリゲン体、ビリルビン、白血球、他 第 5 回 尿沈渣 1：標本作成法、鏡検法、染色法 第 6 回 尿沈渣 2：細胞成分、円柱、結晶 第 7 回 糞便検査、喀痰検査、胃液検査、十二指腸検査、穿刺液検査、精液検査 他 第 8 回 脳脊髄検査：性状、採取法、基準範囲、細胞学的検査及び科学的検査							全て 小菅
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験 100%							
教科書	『最新臨床検査学講座 一般検査学』医歯薬出版 1 年生前期「一般検査学」で使用したもの				参考書等		なし	
学生への メッセージ	疾患と各検査結果の関わり、正確な病態把握が十分理解できるよう、積極的に講義に取り組んでください。							